

## 伝統工芸品を後世に残すにはどうすればいいか？

3年5組13番 籠谷優奈

Keyword 「伝統工芸品」「日本刀」「後継者問題」「職人」「需要」

## 1. はじめに

私が伝統工芸品について探究しようと思ったきっかけは、高校一年生の時に日本刀について興味を持ったことだ。もともと小さい時から日本史が好きだったことも関係して、日本独自のもの、日本ならではのものである伝統工芸品に興味を湧いた。

日本刀について調べていくうちに、刀鍛冶師の人数が約50年前と比べて半分以上も減っていることに気づいた。このままでは刀鍛冶師がいなくなって、日本刀がなくなるのではないかと考えた時に、他の伝統工芸品にも同じ課題があるのではないかと気づき、伝統工芸品を後世に残すには何をすればいいか、後世に残すために何ができるかを考えるようになった。

私はこの探究で、伝統工芸品に携わる人が増え、技術が後世に伝わり続けるようになってほしいと考えている。

## 2. 序論

私はこの探究で、なぜ伝統工芸品に携わる仕事に就きたがる人がいないのか、どうすれば伝統工芸品関連の仕事につきたいと思ってもらえるかについて知ろうと考えた。

伝統工芸品についての問題点は、「職人の不足と高齢化」「需要の変化」「原料の不足と高騰」の三つである。私は、この中から「職人の不足と高齢化」について探究した。伝統工芸品に携わる仕事に就きたがる若い人が少ない理由について、ポプラ社『伝統工芸』ではこう書かれている。

伝統工芸の仕事につこうとする若い人たちが少なくなっているのには、さまざまな要因がありますが、そのひとつとして、つぎのような指摘があります。それは、地味な仕事であったり、大きな設備や投資を必要としたりする職種には、若い人たちがあまりつきたがらないということです。

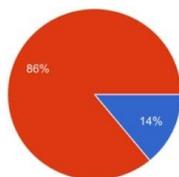
私はこれを読み、大きな設備や投資が必要でなければ、伝統工芸品に携わる仕事に就いてみたいと思ってもらえるか、伝統工芸品に対する興味や関心がどのくらい高いのかを調べるために高校3年生を対象にアンケートをした。

## 3. 本論

私はアンケートで職人の仕事についてと伝統工芸品についてアンケート調査を行った。職人の仕事についての質問の結果は、下のようになった。

職人になってみたいと思いますか？

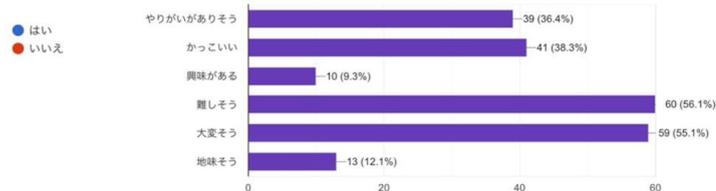
107件の回答



伝統工芸品の職人という仕事についてどう思いますか？

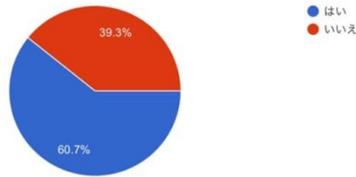
107件の回答

コピー

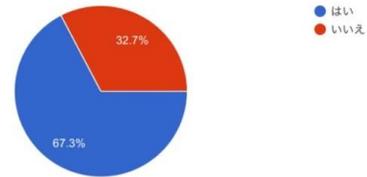


これらのことから、奈良県立国際高校の3年生も職人になりたいと考えている人が少ないこと、理由として難しそう、大変そうだと考えられていることがわかる。また図には無いが、給料が安定してなさそうという意見もあった。また、伝統工芸品についての結果は以下の通りである。

趣味として伝統工芸品の職人の技術を学べるとしたら、学んでみたいですか？  
107 件の回答



学校で伝統工芸品の職人の仕事を体験できるイベントがあったら参加したいですか？  
98 件の回答



その結果、技術は学んでみたいと考えている人は多いことがわかった。これらのことから、給料についての課題が解決すれば職人になりたいという人は増えるのでは無いかと考えた。実際この問題の解決のために、独立や生計を立てることが難しかった刀鍛冶について、会社を立ち上げた人たちがいる。普通、刀鍛冶師は刀匠の元で5年修行をし資格を取らなければならないが、修行中は良くて無給であり独立にも多額のお金がかかる。しかし会社であれば、修行中も安定した収入があり、独立の必要がないため多額の出費が出ることもないため、生活していけると考えられる。

しかしこのような会社について知っている人は少なく、数もまだあまり多くない。このような会社が増え、知名度が上がれば、技術を残していくことはできるだろうと考えた。

#### 4. 結論

これらのアンケート結果から私は伝統工芸品を作る技術を残すには、本論で出した会社のように、職人という仕事を他の一般企業と同じように目指せる仕事にすることが効果的だと考えた。そして誰でも伝統工芸品を作る技術を気軽に学べる環境ができあがれば、職人の仕事がどんな人でも目指せる仕事になったとき、伝統工芸の仕事に就く若い人も増えると考えた。

#### 5. おわりに

私はこの探究をして、職人になるまでの過程が陰し過ぎることに驚いた。現代の人に技術を伝えるには、職人の仕事のままでは確かに難しいと考えた。会社の数を増やすことについて自分にできることはあまりないが、会社が増えたとき、伝統工芸品について興味を持っている人が多ければ伝統工芸品の会社に就く人が多くなるだろうと考えた。そのため、自分ができることはいろいろな人が伝統工芸品に興味を持つように紹介することだと考えた。

#### 6. 参考文献・出典

伝統工芸品産業振興会『ポプラディア情報館 伝統工芸品』ポプラ社, 2006